

新羅華嚴文献所引『華嚴五教章』テキスト

佐藤 厚

## 新羅華嚴文献所引『華嚴五教章』テキスト

佐藤 厚

## 1 問題の所在

法蔵(643-712)が著わした『華嚴五教章』(以下『五教章』<sup>1</sup>)は華嚴学の基本典籍であるが、テキストの問題がある<sup>2</sup>。伝統的に、日本で流通した和本、中国で流通した宋本があり、それらは①題目、②章の構成、③語句が違っている。中でも注目されるのは②章の構成であり、全体が十門からなる中、和本では第九が義理分齊、第十が所詮差別であるが、宋本ではこれが逆になっている。どちらが原初形態を示すのか問題となってきた。こうした中、1970年代から朝鮮で流通したテキスト、すなわち10世紀の均如が用いるテキストが注目されるようになったが、それは宋本型であった。

この問題について吉津宜英は、本来の『五教章』は和本型であるが、途中で宋本型に変わったという仮説を発表した<sup>3</sup>。その論拠の一つは、新羅の見登(生没年不詳)が引用する『五教章』テキストが和本型であることから、新羅における『五教章』は当初、和本型であったが、途中から変更が加えられて高麗の均如(923-973)が用いるような宋本型になったと推測している。しかし、近年、見登は新羅の僧侶ではあるが、日本で活躍した僧侶であることが明らかになった<sup>4</sup>。すると、見登が和本型を用いるのは当然の話であり、新羅で和本型が流通していた十分な証拠とはなりえなくなる。

こうした状況を踏まえ、本論文では、まず新羅の僧侶たちが引用していた『五教章』がどのようなものかを明らかにしようとする。具体的には、8世紀の表員と9世紀の見登を取り上げ、彼らの著作中に引用される『五教章』を現行の和本、宋本と対照し、どちらに近いのかを明らかにする。

1 題名には幾つかの種類があるが、便宜上、ここでは『五教章』とする。

2 『五教章』のテキスト論について整理した最近の成果に筆者の研究がある。佐藤厚「『華嚴五教章』の成立をめぐる文献学的問題」(『東アジア仏教学術論集』第11号、2023年)

3 吉津宜英『華嚴一乘思想の研究』(大東出版社、1991年) pp.178-203

4 崔鉉植「『新羅見登』の活動について」(『印度学仏教学研究』第50巻第2号、2002年)

## 2 表員『華嚴經文義要訣問答』所引『五教章』

### (1) 表員と『華嚴經文義要訣問答』<sup>5</sup>

表員は詳しい生没年は未詳であるが、著作を通して皇龍寺の僧侶であることがわかる。751年に筆写により正倉院文書に記録された事実から、成立の下限は751年と考えられる。

表員の唯一の著作である『華嚴經文義要訣問答』（以下『要訣問答』）は刊本としては大日本統藏經と韓国仏教全書に収録されている。統藏經収録本は京都大学所蔵本が活用されたと推定される。筆写本には、佐藤所蔵本（1巻）、延暦寺（2巻）、東大寺（2巻）、龍谷大学（4巻）、身延山大学（4巻）など6種が現存する。

内容は80華嚴を基準として編集された新羅最初の華嚴学概論書である。ほとんどが表員以前の新羅と中国の華嚴学者と地論学者の著作の中から、重要な部分を集めている。全体が18章から構成され、各章は積名、出体、問答分別の三部からなる。最初の3章は「七処九会義」・「説経時義」・「説経仏義」で、信の根拠を説く。次の15章にかけて華嚴哲学を述べる。「六相義」・「十錢喻義」・「縁起義」・「探玄義」・「普法義」・「法界義」、「實際義」・「如如義」、「一乘義」・「分教義」、「発菩提心義」・「十住義」・「十行義」・「十回向義」・「十地義」から構成される。引用される中では地論宗の懐師の説では埋め尽くされる。懐師の説は逸文としてだけ残っているので本書は地論学の流れを解明するにも重要な資料となる。その他、元暁と法蔵の弟子である慧苑の解釈が重視される。訳注には金知見監修、金天鶴翻訳『華嚴經文義要訣問答』（民族社、1998年）がある。

『要訣問答』に引用される『五教章』は21か所あり、その多くは「六相義」と「一乗義」の部分で引用される。「六相義」の部分で『五教章』義理分齊の六相義が引用され、「一乗義」の部分では『五教章』建立一乗の一乗についての説明が引用される。これがテキストを考える上で貴重なのは、引用文であるとはいえ、早い時期の『五教章』テキストを伺うことができるからである。つまり『要訣問答』が743年以前の成立であるとする、例えば中国華嚴の澄観（738-839）が見る以前のテキストということになるからである。この意味で『要訣問答』所引『五教章』は重要なのである。

### (2) 『華嚴經文義要訣問答』所引『五教章』

続いて『要訣問答』に引用される『五教章』の文と、大正新修大藏經の『五教章』の校注をもとにした校異を示す。

紹介の順序は、①通し番号、②『要訣問答』の章題、③韓国仏教全書の巻頁数、④引用名、引用名がない場合は\*引用名ナシ、⑤大正新修大藏經の頁数、⑥『五教章』の中の章

5 東国大学校仏教文化院アーカイブ『華嚴經文義要訣問答』解題 [https://kabc.dongguk.edu/content/pop\\_heje?dataId=ABC\\_BJ\\_H0039](https://kabc.dongguk.edu/content/pop_heje?dataId=ABC_BJ_H0039)

節名を番号とともに示したものである。これは大正新修大藏經を対照することから、宋本の順序に従って記している。

校異の中、

和=●とあるのは、『要訣問答』と宋本が共通し和本が異なるもの。

宋=●とあるのは、『要訣問答』と和本が共通し宋本が異なるもの。

和宋=●とあるのは、『要訣問答』が宋本と和本とも異なり、かつ宋本と和本が共通しているものを意味する。

和=●、宋=●とあるのは、『要訣問答』が宋本と和本とも異なり、かつ宋本と和本と異なるものを意味する。

#### 1. 卷1：六相義（韓仏全2・355c10-c15）、法蔵師

『五教章』（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊 > 10.4 六相円融

法蔵師云、総相者、一①含多徳故。別相者、多徳非一故。別依②止総。満彼総故。同相者、多義不相違、同成一総故。異相者、多義相望、各各異故。成相者、由此諸義、縁起成故。壊相者、諸義各住自法、不移動故。

①含：宋=舎 ②止：宋=比

#### 2. 卷1：六相義（韓仏全2・355c10-c15）、法蔵師

『五教章』（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊 > 10.4 六相円融

法蔵師、今且略①就縁成舎辨。問。何者、是総相。答。舎是。問。此但椽等諸縁、何者是舎耶。答。椽即是舎。何以故。為椽②令③独能作舎。若離④椽、舎即⑤令不⑥成故。若得椽時、即得舎⑦耶。問。若椽全自独作舎者 未有瓦等 亦應作舎。答。未有瓦等時、不是椽故不作、非謂是椽而不能作。今言⑧能作者、但論椽能作不説非椽作。何以故。椽是因縁 由未成舎時無因縁故、非是⑨椽也。若是椽者、其畢⑩令成。若不⑪令⑫作、不名為椽。問。若椽等諸縁、各出小力作、不⑬令作者有何過失。答。有斷常過。若不⑭令成、但小力者、諸縁各少力。⑮此多箇⑯少、不成一⑰令舎故是断也。諸縁並少力、皆無有⑱令執有⑲令舎者、無因有故、⑳是常也。㉑又若不㉒令成者、去却一椽時、舎應猶㉓成在、舎既令不成。故知非小力並㉔令成㉕故。問。無一椽時、豈非舎耶。答。但是破舎、無好舎也。故知好舎㉖令属一椽、既属一㉗椽。故知椽即是舎也。問。既㉘舎即是椽㉙者、余㉚椽瓦等應即是椽耶。答。総並是椽。何以故。㉛却椽即㉜無故。所以然者、若無椽、即舎不成舎不成故。不名㉝椽瓦等。是故、㉞椽瓦等即是縁

也。若不<sup>⑤</sup>即者、舍即不成。<sup>⑥</sup>椽瓦等、並皆不成。今<sup>⑦</sup>既並成故。故知相即耳。一椽既爾、余椽例然。是故一切緣起法、不成<sup>⑧</sup>即已、成則<sup>⑨</sup>相<sup>⑩</sup>容融、無礙自在、円極難思、出過情<sup>⑪</sup>外。法性緣<sup>⑫</sup>起、一切処<sup>⑬</sup>准知。

①就緣：和<甲>拋緣起、和<乙><丙>就=拋 ②令：和宋=全 ③獨：宋=自獨  
④椽：宋=於椽 ⑤令：宋=ナシ、和=全 ⑥故：宋=ナシ、和=故為此 ⑦耶：和  
宋=矣 ⑧能：和=ナシ ⑨椽：宋=緣 ⑩令：和宋=全 ⑪令：和宋=全 ⑫作：  
宋=成 ⑬令：和宋=全 ⑭令：和宋=全 ⑮此：和宋=此但 ⑯少：和宋=少力  
⑰令：和宋=全 ⑱有令：和宋=全成 ⑲令：和宋=全 ⑳是：和宋=是其 ㉑又：  
宋=ナシ ㉒令：和宋=全 ㉓成：宋=ナシ ㉔令：和宋=全 ㉕故：宋=也 ㉖  
令：和宋=全 ㉗既屬一椽：和<甲>=ナシ ㉘既舍：宋=舍既 ㉙者：和<甲>=  
ナシ ㉚椽：宋=板 ㉛却：宋=去却 ㉜無：宋=無舍 ㉝椽：宋=板 ㉞椽：宋=  
板 ㉟即：宋=即椽 ㊱椽：宋=板 ㊲既：和<乙>=椽 ㊳即：宋=則 ㊴相：和  
宋=相即 ㊵容：和宋=鎔 ㊶外：和宋=量 ㊷起：和=起通 ㊸准：和宋=準

3. 卷1：六相義（韓仏全2・356 b21-c11）、\*引用名ナシ  
『五教章』（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊> 10.4 六相円融

問。第二別相者、何耶。答。椽等諸緣、別於總故。若不別者、總義不成。由無別時、即無總故。此義云何。本以別成總。由無別<sup>①</sup>收、總不成也。是故別者、即以總<sup>②</sup>為別也。問。若總即別者、應不成總耶。答。由總即別故、<sup>③</sup>是故得成總、如椽即是舍、故名總<sup>④</sup>相、即是椽故、名別相。若不即舍、不是椽。若不即椽、不是舍。總別相即、可<sup>⑤</sup>准思之。問。若相即者、云何說別。答。<sup>⑥</sup>只由相即。是故成別。若不相即者。總在別外。故非總也。別在總外、故非別也。思之可解。問。若不別者。有何過<sup>⑦</sup>失耶。答。有斷常過。若<sup>⑧</sup>無別椽瓦、無別椽瓦<sup>⑨</sup>故、不成總舍、故<sup>⑩</sup>是斷也。若無別椽瓦<sup>⑪</sup>等、而有總舍者、無因有舍、故是<sup>⑫</sup>常也。

①收：和宋=故 ②為：宋=成 ③是故：和(甲乙)=ナシ ④相：和=相舍 ⑤  
可准：和宋=此可 ⑥只：宋=祇 ⑦失：和宋=ナシ ⑧無：和宋=無別者即無  
⑨故：和宋=故即 ⑩是：宋=此 ⑪等：和=等以 ⑫故是常：宋=是常過

4. 卷1：六相義（韓仏全2・356c12-c21）、\*引用名ナシ  
『五教章』（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊> 10.4 六相円融

問。第三同相者、何耶。答。椽等諸緣、<sup>①</sup>和同作舍、不相違故、<sup>②</sup>皆<sup>③</sup>名舍緣、非作余物故、名同相也。問。此与總相、何別耶。答。總相唯望一舍說。今此同相、約椽等諸緣。雖体各別、成舍力義齊故、名同相也。問。若不同者、有何過耶。答。若不同者、有斷常過也。何者、若不同者、椽等諸<sup>④</sup>緣、互相違背、不得作舍、舍不得有、故是斷也。若相違不作舍、而執有舍者、無因有舍、故是常也。

①和：和=合和 ②皆：和=能 ③名：和(丙)=總名 ④緣：宋=能

5. 卷1：六相義（韓仏全2・356c22-357a09）、\*引用名ナシ  
『五教章』（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊> 10.4 六相円融

問。第四異相者、何耶。答。椽等諸緣、隨自形類、<sup>①</sup>相差別故。問。若異者、應不同耶。答。<sup>②</sup>只由異故、所以同耳。若不異者、椽既丈二、瓦<sup>③</sup>應亦爾、懷本緣法故、即失前齊同成舍義也。今既舍成、同名緣者、當知異也。問。此与別相、<sup>④</sup>何<sup>⑤</sup>異耶。答。前別相者、但椽等諸緣、(\* 16 文字略)迭互相望、各各異<sup>⑥</sup>故問。若不異者、<sup>⑦</sup>何失。答。有斷常<sup>⑧</sup>失也。何者、若不異者、瓦即同椽丈二。壞本緣法、<sup>⑨</sup>不成舍、故是斷<sup>⑩</sup>也。若壞緣不成舍、而執有舍者、<sup>⑪</sup>無因有、故是常也。

①相：宋=相望 ②只：宋=祇 ③應亦：宋=亦應 ④何：和宋=有何 ⑤異：和=別 ⑥故：宋=相 ⑦何失：宋=有何過失耶、和=有何過耶 ⑧失：宋=過、和=過失 ⑨不：宋=不共 ⑩也：和宋=ナシ ⑪無因有：宋=無因有舍、和=舍無因

6. 卷1：六相義（韓仏全2・356c22-357a09）、\*引用名ナシ  
『五教章』（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊> 10.4 六相円融

問。第五成相者、何耶。答。由此諸緣、舍義成故。由成舍故、椽等名<sup>①</sup>緣。若不爾者、二俱不成。今現得成、故知成<sup>②</sup>相耳。問。現見椽等諸緣、各住自法、本不作舍。何因得、有舍義成耶。答。<sup>③</sup>只由椽等諸緣不作故。舍義得成。所以然。若椽作舍<sup>④</sup>去即失本椽法故、舍義不得成。今由不作故、椽等諸緣現<sup>⑤</sup>在<sup>⑥</sup>前、由此現前故、舍義得成矣。又若不作舍、椽等不名<sup>⑦</sup>緣。今既得緣名、明知定作舍<sup>⑧</sup>也。問。若不成者、何

⑨失。答。有斷常過。何者、舍本⑩作椽等諸緣成。今既並不得有舍、故是斷也。本⑪以成舍名為椽。今既不作舍、故⑫即無椽⑬亦是斷。若不成者、舍無因有。故是常也。又椽不作舍、得椽名者、亦是常也。

①緣：和（丙）＝椽 ②成相：宋＝成相互成之 ③只：宋＝祇 ④去：和（乙）＝法 ⑤在：和宋＝ナシ ⑥前：宋＝前故 ⑦緣：宋＝多緣 ⑧也：和宋＝ナシ ⑨何失：宋＝何過失耶、和＝有何失 ⑩作：和宋＝依 ⑪以：宋＝以緣 ⑫即：宋＝ナシ ⑬亦：宋＝ナシ

7. 卷1：六相義（韓仏全2・357b02-b11）、\*引用名ナシ

【五教章】（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊＞10.4 六相円融

問。第六壞相者、何耶。答。椽等諸緣、各住自法、本不作故。問。現見椽等諸緣、作舍成就。何故、乃說本不作耶。答。①只由不②作、③合法得成。若作舍④者、不住自法⑤者、舍義即不成。何以故。作⑥者失法、舍不成故。今既舍成、明知不作也。問。若作⑦者、有何失。答。有斷常二失。若言椽⑧作⑨者、即失椽法、失椽法故、舍即無⑩緣、不得有、⑪故是斷也。若失椽法、而有舍者、無⑫椽有⑬故是常也。

①只：宋＝祇 ②作：宋＝作故 ③合：和宋＝舍 ④者：和宋＝ナシ ⑤者：宋＝有 ⑥者：和宋＝去 ⑦者：和宋＝去 ⑧作：宋＝作舍 ⑨者：宋＝ナシ、和＝舍 ⑩緣：和宋＝椽 ⑪故：宋＝ナシ ⑫椽：和＝緣 ⑬故：宋＝ナシ

8. 卷1：六相義（韓仏全2・358a12-a17）、蔵法師

【五教章】（大正蔵45・507c6-9）10 義理分齊＞10.4 六相円融

蔵法師乃為頌曰、一即具多名總相、多即非一是別相、多類自同成於總、各体別異顯於同一多緣起理妙成、壞性自法常不作、唯智境界非事識、以此方便會一乘。

9. 卷3：一乘義（韓仏全2・377c17-c22）、法蔵師

【五教章】（大正蔵45・477a13-21）1 建立一乘＞1.1 權實差別

法蔵師云、一乘（\*5文字略）為二門。一別教。二同教。初中①亦二。一②是性海果分。③是當不可說義。（\*3文字略）不与教相④應。⑤即十仏⑥境界。（\*16文字略）⑦二緣起因分。即普賢境界也。此二無二。全体遍收。⑧猶水波。思⑨之。⑩普賢門⑪

中復作二門。一分相門。二該撰門。⑫初中是別教一乘。別⑬於三乘。

①亦：宋＝ナシ ②是：宋＝ナシ ③是當：宋＝是、和＝當是 ④應：和宋＝應故 ⑤即：宋＝則 ⑥境界：和宋＝自境界也 ⑦二：和＝二是 ⑧猶：和宋＝如猶 ⑨之：和宋＝之可見 ⑩普：和宋＝就普 ⑪中：宋＝ナシ ⑫初中：和宋＝分相門者此則 ⑬於：和＝於彼

10. 卷3：一乘義（韓仏全2・377c22-378a02）法蔵師

【五教章】（大正蔵45・477a21-a24）1 建立一乘＞1.1 權實差別

如法蔵師云、門①与三車引子得出。是三乘②教。界外露③地牛車是一④乘也。然此⑤一三差別。略有十說。一權實差別。

①与：和宋＝外 ②教：和宋＝教也 ③地：宋＝地所授、和＝地所授大白 ④乘：和宋＝乘教 ⑤一三：和宋＝一乘三乘

11. 卷3：一乘義（韓仏全2・378a02-a04）\*引用名ナシ

【五教章】（大正蔵45・477b19-b21）1 建立一乘＞1.1 權實差別

問。臨門三車。為實為不實耶。答實不實。（\*19文字略）是方便引故非是實。

12. 卷3：一乘義（韓仏全2・378a05-a06）\*引用名ナシ

【五教章】（大正蔵45・477b22-24）1 建立一乘＞1.2 教義差別

二教①義別。臨門三車。（\*19文字略）但有其名。（\*10文字略）經云。以仏教門出三界苦故。

①義別：和宋＝義差別

13. 卷3：一乘義（韓仏全2・378a06-a08）\*引用名ナシ

【五教章】（大正蔵45・477b27-29）1 建立一乘＞1.3 所期差別

三所①期②別。以彼一乘非是界內。③先許三。（\*10文字略）諸④子皆云非本所望故。（\*云云）。

①期：和宋=明 ②別：和宋=差別 ③先：和=先所 ④子：和宋=子時

14. 卷3：一乘義（韓仏全2・378a08-a11）\*引用名ナシ

『五教章』（大正蔵45・477c4-14）1 建立一乘 > 1.4 德量差別

四德①量別。②三中牛車、但③云④牛。不言余⑤德。露地牛車。鈴網（\*3文字略）衆宝而莊嚴等。（\*17文字略）白牛肥壯⑥大力。其疾如風。（\*9文字略）儻⑦徒侍衛（\*62文字略）其数無量。（\*4文字略）非適一。（准之）。

①量：和宋=量差 ②三中牛車：和宋=謂宅内指外 ③云：和=言 ④牛：和宋=牛車

⑤德：和宋=德而 ⑥大：宋=多 ⑦徒：和宋=從而

15. 卷3：一乘義（韓仏全2・378a12-a15）\*引用名ナシ

『五教章』（大正蔵45・477c16-21）1 建立一乘 > 1.5 寄位差別

五寄位①別。以初二三地。寄在世間。四地至七地。寄出世間。八地已上。寄出出世間。於出世中。四五寄声聞。②第③六寄緣覺。七地寄菩薩。八地④以上寄一乘。

①別：和宋=差別 ②第：宋=ナシ ③六：和宋=六地 ④以：宋=已

16. 卷3：一乘義（韓仏全2・378a16-a21）\*引用名ナシ

『五教章』（大正蔵45・478b04-478b10）1 建立一乘 > 1.5 寄位差別

問。若爾、何故梁撰論云。二乘善名出世。（\*14文字略）不言三①乘是出世②耶。（\*6文字略）答。③四五六地。是声聞緣覺。八地④以⑤去。為出出⑥世。彼第七是何人⑦也。是故当知。彼云二⑧乘。即大小二乘也。以声聞緣覺俱⑨名小故。二乘名通⑩大。

①乘：和=乘但、乘俱 ②耶：和宋=ナシ ③四五六地。是声聞緣覺：和=四五二地為声聞、第六為緣覺、宋=四五二地為声聞、第六地為緣覺 ④以：宋=已 ⑤去：和=上 ⑥世：和=世然 ⑦也：和=耶 ⑧乘：和=乘名出世者、宋=乘善名出世 ⑨名：宋=名為 ⑩大：和宋=ナシ

17. 卷3：一乘義（韓仏全2・378a21-b03）\*引用名ナシ

『五教章』（大正蔵45・478a10-19）1 建立一乘 > 1.6 付屬差別

六付①屬別。如法華云。若善男子善女人。信如来智慧者。為令得仏②慧。若不信受者。当余深法中示教利喜。謂余深法者。即是大乘。非③即一乘稱之為余。然非小乘。是故稱深。亦不可說以彼小乘為余法。法華破小乘。豈可歎深耶。

①屬：和宋=屬差 ②慧：宋=智慧 ③即：宋=ナシ

18. 卷3：一乘義（韓仏全2・378b03-b08）\*引用名ナシ

『五教章』（大正蔵45・478a20-25）1 建立一乘 > 1.7 根緣受者差別

七根緣①受別者。如此②經云。仏子。菩薩摩訶薩。無量億那由他劫。行六波羅蜜。修習道品善根。未聞此經。雖聞不信受持隨順。是等猶為假名菩薩。解云。此明三乘菩薩根未熟故。③雖如是經爾許劫④修行。⑤不聞不信此一乘經者。

①受：和宋=受差 ②經：和宋=經性起品 ③雖：和=雖能 ④修：和=修如是 ⑤不聞不信：宋=不信不聞

19. 卷3：一乘義（韓仏全2・379a15-a22）\*引用名ナシ

『五教章』（大正蔵45・478a29-b06）1 建立一乘 > 1.8 難信易信差別

難信易信①別。②如賢首品云。一切世界群生類。尠有欲求声聞③道。求緣覺者轉復小。求大乘者甚希有。求大乘者猶為易。能信④是法甚為難。解云。以此⑤品正明信位終心。則撰一切位及成仏等事。既超三乘。恐難信受。⑥故對⑦以決之。

①別：和宋=差別 ②如：和宋=如此經 ③道：宋=乘 ④是：宋=此 ⑤品：和宋=品中 ⑥故：和宋=故舉三乘 ⑦以：和宋=比

20. 卷3：一乘義（韓仏全2・378c13-c19）\*引用名ナシ

『五教章』（大正蔵45・478b6-14）1 建立一乘 > 1.9 約機顯理差別

九約機顯理①別。如此經第九地初偈云。若②有衆生下劣。其心厭沒者。③亦以声聞道。令出④於衆苦。若復有衆生。諸根小便利。樂於因緣法。為說辟支仏。若人根因

利。有大慈悲心。饒益⑤於衆生。為說菩薩道。若有無上心。決定樂大事。為示於仏身。説無尽仏法。(引晋經文。新經准之。)解云。此明一乘法門、主伴⑥具故、云無尽仏法。不同三乘一相一寂等法⑦也。

①別：和宋＝差別 ②有：和宋＝ナシ ③亦：和宋＝示 ④於：宋＝于 ⑤於：和宋＝諸 ⑥具：和宋＝具足 ⑦也：宋＝ナシ

## 21. 卷3：一乘義 (韓仏全2・379a15-a22) \*引用名ナシ

『五教章』(大正蔵45・490a22-27) 9所詮差別 > 9.3 行位差別

答。以此經中。安立諸位。有二善巧。一約相。就分位前後。寄同三乘。引彼①便故。是同教也。二約体。就法前後相入。円融自在。異彼三乘。是別教②故。以不移門而恒相即。不壞③即④為恒前後也。是故。二義融通不相違也。(如後縁撰門説)

①便故：宋＝方便 ②故以：和宋＝也但 ③即：和＝相即 ④為：和宋＝而

次に<表1>として校異の結果一覧を示す。

<表1> 校異の結果一覧

	引用名	引用箇所	校異 件数	和本と 同じ	宋本と 同じ	和本の 異本	独自	備考
1	法蔵師	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	2	2	0	0	0	
2	法蔵師	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	43	18	2	4	19	
3	ナシ	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	12	4	2	1	5	
4	ナシ	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	4	1	2	1	0	
5	ナシ	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	11	5	1	0	5	
6	ナシ	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	13	8	0	2	3	
7	ナシ	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	13	6	1	0	6	
8	蔵法師	10 義理分齊 > 10.4 六相円融	0	0	0	0	0	
9	法蔵師	1 建立一乗 > 1.1 権実差別	14	4	3	0	7	省略多い
10	法蔵師	1 建立一乗 > 1.1 権実差別	5	0	0	0	6	省略多い
11	ナシ	1 建立一乗 > 1.1 権実差別	0	0	0	0	0	省略多い
12	ナシ	1 建立一乗 > 1.2 教義差別	1	0	0	0	1	省略多い
13	ナシ	1 建立一乗 > 1.3 所期差別	4	1	1	0	2	省略多い
14	ナシ	1 建立一乗 > 1.4 徳量差別	3	1	1	0	1	省略多い
15	ナシ	1 建立一乗 > 1.5 寄位差別	4	2	0	0	2	
16	ナシ	1 建立一乗 > 1.5 寄位差別	6	2	4	0	0	省略多い
17	ナシ	1 建立一乗 > 1.6 付属差別	2	1	0	0	1	
18	ナシ	1 建立一乗 > 1.7 根縁受者差別	5	1	2	0	2	
19	ナシ	1 建立一乗 > 1.8 難信易信差別	4	2	0	0	2	
20	ナシ	1 建立一乗 > 1.9 約機顕理差別	3	2	0	0	1	
21	ナシ	9 所詮差別 > 9.3 行位差別	4	1	1	0	2	
計			150	62	20	8	60	

『要訣問答』で引用される『五教章』は、ほとんどが義理分齊の六相か、建立一乗の箇所である。対校上の特徴は、校異箇所が全150か所ある中、和本と同じ所が62か所、宋本と同じ所が20か所、和本の中の異本が異なる箇所が8か所、和本、宋本とも異なる所が60か所あった。ひとまずここから得られる情報としては、和本と同じ所が62か所、宋本と同じ所が20か所であるから、宋本よりも和本に近いテキストである、といえる。これは吉津氏が均如の著作について述べていたのと同じ傾向である<sup>6</sup>。

ただ、『要訣問答』所引『五教章』で考慮しなければならないのは、引用が正確な引用でない箇所が多いと考えられることである。とくに「一乗義」で引用される『五教章』は、文章を要約して示していると思われる部分があり、これをそのまま当時のテキストと考えることはできない。例えば建立乗の項目名が、権実差別はいいが、そのほかは、教義別、所期別など差別の差が省略されている。また原文16の対校③では、『要訣問答』が「四五六地。是声聞縁覚」としているのに対し、和本は、「四五二地为声聞、第六为縁覚」に、宋本は「四五二地为声聞、第六地为縁覚」としている。これは和本、宋本ともに若干異なり、『要訣問答』所引『五教章』がどちらに近いかはわからないが、どちらにせよ『要訣問答』が『五教章』原文を要約して引用しているものであることがわかる。

## 3 見登『一乗成仏妙義』

### 3-1 著者および書誌、内容

『一乗成仏妙義』<sup>7</sup> (以下『成仏妙義』)の著者・見登は851年以前に活動したことは確実である。引用される書物から、系譜的には新羅の義相系統と教学的に通じるものがあるが、『大乘起信論』と元暁の『劫義』を引用しているところから、義湘と元暁を合わせた思想形態を見せている。また見登は新羅出身でありながら、その中に日本の華嚴宗の寿靈の著述を引用しているが、これは新羅の僧侶が日本僧侶の著作を引用した最初の事例でもある。このため見登は日本で活動したものと考えられている<sup>8</sup>。

刊本は統蔵経、韓国仏教全書に収録され、写本は京都大学に一つ、高野山大学に4種が所蔵されている。

内容は5章から構成される。第1章では成仏の種類を提示する。第2章では必ず成仏する人を提示する。第3章では各教説の差別を表す。第4章では疾得成仏の部類について分類する。第5章は成仏に対する質疑応答である。

第1章の成仏の種類では、法蔵の『探玄記』に基づいて、位成仏、行成仏、理成仏に区分する。第2章では成仏に対する三種の観点の具体的な解釈と成仏の時期について扱う。

6 吉津前掲書

7 東国大学校仏教文化院アーカイブ『華嚴一乗成仏妙義』解題 [https://kabc.dongguk.edu/content/pop\\_heje?dataId=ABC\\_BJ\\_H0051](https://kabc.dongguk.edu/content/pop_heje?dataId=ABC_BJ_H0051)

8 崔前掲論文

法蔵の論旨にしたがい、三生成仏を定説としている。第3章では智儼の教判に基づき、成仏に対する理論を区分して説明する。ここから本書の華嚴成仏論が法蔵を軸としながらも智儼の影響を多分に受けていることがわかる。第4章では速く成仏することについて説明している。これもまた智儼の影響のもとに構成されている。第5章では問答形式で成仏論の核心的問題を扱っている。ここでは仏と衆生の差別がないなど、5つの問題について問答を通して明らかにしている。本書は『華嚴経問答』を『香象問答』と名称を変えて引用し、智儼や法蔵の説明には全く見えない義相だけの独特な理論が展開されている。

『成仏妙義』に引用される『五教章』は16か所あり、15か所が所詮差別、1か所が建立一乗である。『成仏妙義』が重要なのは、9世紀半ばのテキストの状況を見ることができると、もしこれが日本で撰述されたものであるとすれば、章立てだけでなくテキストも和本と近いものであるはずだからである。

### 3-2 対校

以下、『成仏妙義』に引用される『五教章』の文と、大正新修大蔵経の『五教章』の校注をもとにした校異を示す。紹介の順序などは前に見た『要訣問答』と同じであるが、『成仏妙義』は一巻本なので、巻数は記していない。

#### 1. 大正蔵 45・776a12-15、五教下巻

『五教章』(大正蔵 45・489b25-28)：9 所詮差別 > 9.3 行位差別

五教下巻云。一約寄位顯。謂始從十信乃至仏①果六位不同。隨得一位得一切位。何以故。由以六②位相③取故。主伴故。相入故。相即故。円融故。

①果：宋=地 ②位：和宋=ナシ ③取：宋=収

#### 2. 大正蔵 45・779c15-18、五教下巻

『五教章』(大正蔵 45・489c22-26)：9 所詮差別 > 9.3 行位差別

五教下巻云。又彼能於一念中化不可説不可説衆生。一時皆至離垢三昧前。余念念中皆亦如是。(乃至) ①是此前三生中解行位内之行相也。

①是此：和宋=此是

#### 3. 大正蔵 45・781c21-23、五教文

『五教章』(大正蔵 45・489c06-09) 9 所詮差別 > 9.3 行位差別

又①兜率天子等從惡道出已一生。即②至離垢三昧前得十眼十耳等境界。広如小相品説。五教文。

①兜：和=都 ②至：宋=得

#### 4. 大正蔵 45・781c24-27、五教文

『五教章』(大正蔵 45・489c11-15)：9 所詮差別 > 9.3 行位差別

謂經文如弥勒告善財。言我当来①世成覚時汝当見我。如是等当知此約因果前後。分二位故。是故前位但是因。円果在後位。故説当見②我。五教文

①世：宋=ナシ ②我：宋=我也

#### 5. 大正蔵 45・782b29-c02、五教下巻

『五教章』(大正蔵 45・493c14-16) 9 所詮差別 > 9.6 斷惑分齊

五教下巻云。然彼地前三賢位中初①既即不墮二乘地②故。於煩惱障自在能斷留故。不斷為除③智障等故。

①既：和=即 ②故：宋=中 ③智：宋=所知

#### 6. 大正蔵 45・783b05-08、五教下巻

『五教章』(大正蔵 45・490b11-14) 9 所詮差別 > 9.4 修行時分

五教下巻云。上根者謂仏定滿三僧祇劫。此中劫数取水火等一劫為一數。十①個②一為第二數。如是展轉至第六十為一阿僧祇。依此以數③三僧祇也。

①個：和宋=箇 ②一：宋=合一 ③三：宋=三阿

#### 7. 大正蔵 45・784a29-b05、五教下巻

『五教章』(大正蔵 45・485b27-c05) 9 所詮差別 > 9.2 種性差別



五教下卷云。若依小乘種性有①六。謂退思護住昇進不動。不動性中有三品。(上中下如次三乘人也)。雖於此中說一人有種性。然非是彼大菩提性。以於弘功德不說盡未來際起大用等故。是故當知。於此教中。除一人余一切衆生。皆不說有大菩提性。

①六：宋 = 六種

8. 大正藏 45・786c28-787a08、五教

『五教章』(大正藏 45・485c06-15) 9 所詮差別 > 9.2 種性差別

五教云。一約始教。即就有為無常①法立種性故。則不能遍一切有情故。五種性中即有一分無性衆生。故顯揚論云。云何種性差別。五種道理。②一切界差別可得故。(乃至云)。唯現在世非般涅③槃。不応理故。乃至廣說。是故當知。由法爾故無始時來一切有情有五種性。第五種性無有出世功德因。故永不滅度。由是道理諸弘利樂有情功德無有斷盡。其有種性者。④如瑜伽論云。種性⑤亦有二種。一本性住。二習所成。

①法：和宋 = 法中 ②一：和宋 = 謂一 ③槃：和宋 = 槃法 ④如：宋 = ナシ ⑤亦：和宋 = 略

9. 大正藏 45・789b15-16、下卷

『五教章』(大正藏 45・490c20-21) 9 所詮差別 > 9.4 修行時分

下卷云。從①發意即福慧雙修。故成弘時無別修也。

①發：和宋 = 初發

10. 大正藏 45・776c16-17、章下卷

『五教章』(大正藏 45・490b05) 9 所詮差別 > 9.3 行位差別

章下卷云。由信成故①是行弘、非位弘云云。

①是：宋 = 是故是

11. 大正藏 45・782a29-b1、下卷

『五教章』(大正藏 45・486a02-03) 9 所詮差別 > 9.2 種性差別

下卷云。三賢之前但名善趣不名種①姓。

①姓：和宋 = 性

12. 大正藏 45・786a10-14、下卷

『五教章』(大正藏 45・488b09-14) 9 所詮差別 > 9.3 行位差別

下卷云。又亦①為說乾慧等十地。第九名菩薩地。第十名弘地者。欲引二乘望上不足。漸次修行至弘果故。又彼弘②果、不在十地外。③亦同在地中者、以引彼故方便同彼。以二乘人於現身上得聖果。故不在後也。

①為說：宋 = 說為 ②果：宋 = 界 ③亦：宋 = ナシ

13. 大正藏 45・787b04-12、下卷

『五教章』(大正藏 45・490c21-491a05) 9 所詮差別 > 9.4 修行時分

下卷云。二不定①三僧祇此有二義。一②為通余雜類世界故。如勝天王經說。二提弘③德無限量故。如寶雲經云。善男子菩薩不能思議如來境界。不可思量。但為淺近衆生說三僧祇修④集所得⑤菩提。而實發心已來不可計⑥數。解云。此中不可計⑦數阿僧祇劫非但三也。問。何故前教定三僧祇此⑧中乃有定不定耶。答。前教生故。此教熟故。方便漸漸勸彼三乘。向一乘。故作⑨是說也。

①三：宋 = 修三 ②為：宋 = ナシ ③德：宋 = 功德 ④集：宋 = 習 ⑤菩提：宋 = 菩薩 ⑥數：和 = 數也 ⑦數：和宋 = 數者 ⑧中乃：宋 = 教 ⑨是：和宋 = 此 (和の乙だけは是)

14. 大正藏 45・789c03-07、下卷

『五教章』(大正藏 45・487 c 24-28) 9 所詮差別 > 9.2 種性差別

下卷云。唯一真如離言①絕相名為種性。而亦不分性習之異。以一切法②無二相故。是故諸法無行經云。云何是事名為種性。文殊師利一切衆生皆是一相。畢竟不生離諸名字。一異不可得故是名種性。

①絶：宋=説 ②無：宋=由無

15. 大正蔵 45・790a27-b01、下巻

『五教章』(大正蔵 45・491a07-10) 9 所詮差別 > 9.4 修行時分

下巻云。一切時分①皆悉不定。何以故。②為諸劫相入故。相即故。該通一切因。

①皆悉：宋=悉皆 ②為：宋=謂

16. 大正蔵 45・791b23-24、五教上

『五教章』(大正蔵 45・477b18-19) 1 建立一乗 > 1.1 権実差別

五教上云。①至自位究竟処故。後皆進入別教一乗。

①至：和宋=以至

校異の結果を表にまとめると<表2>のようになる。

<表2>校異の結果一覧

	引用名	引用場所	校異件数	和本と同じ	宋本と同じ	和本の異本と同じ	独自
1	五教下巻	9 所詮差別 > 9.3 行位差別	3	2	0	0	1
2	五教下巻	9 所詮差別 > 9.3 行位差別	1	0	0	0	1
3	五教文	9 所詮差別 > 9.3 行位差別	2	1	1	0	0
4	五教文	9 所詮差別 > 9.3 行位差別	2	2	0	0	0
5	五教下巻	9 所詮差別 > 9.6 断惑分齊	3	2	1	0	0
6	五教下巻	9 所詮差別 > 9.4 修行時分	3	2	0	0	1
7	五教下巻	9 所詮差別 > 9.2 種性差別	1	1	0	0	0
8	五教	9 所詮差別 > 9.2 種性差別	5	1	0	0	4
9	下巻	9 所詮差別 > 9.4 修行時分	1	0	0	0	1
10	章下巻	9 所詮差別 > 9.3 行位差別	1	1	0	0	0
11	下巻	9 所詮差別 > 9.2 種性差別	1	0	0	0	1
12	下巻	9 所詮差別 > 9.3 行位差別	3	3	0	0	0
13	下巻	9 所詮差別 > 9.4 修行時分	9	6	0	1	1
14	下巻	9 所詮差別 > 9.2 種性差別	2	2	0	0	0
15	下巻	9 所詮差別 > 9.4 修行時分	2	2	0	0	0
16	五教上	1 建立一乗 > 1.1 権実差別	1	0	0	0	1
			40	25	3	1	11

第一に、引用名は、16 の引用箇所の中、書名を上げる場合は「五教」が8で最も多い。この中、「五教」が1、「五教上」が1、「五教下巻」が5、「下巻」が5である。現存する

『五教章』のテキストで上巻、中巻、下巻と巻名を付するテキストは存在しないが、見登がこのように述べるのは、当時、そうしたテキストがあったからか、あるいは便宜的に呼んだだけなのか二つの可能性がある。この中では便宜的に呼んだ可能性が高いと考えられる。そしてこのことが和本型か、宋本型かの問題につながる。ここで見登が使用したテキストは明らかに和本型であったことがわかる。

第二に、引用箇所は、16 の引用箇所の中、建立一乗が1か所で、後の15か所は所詮差別である。所詮差別の中では、種性差別が4か所、行位差別が6か所、修行時分が4か所、断惑分際が1か所である。

第三に、対校上の特徴は、40か所の対校箇所のうち、和本と同じで宋本と異なる箇所が25、宋本と同じで和本と異なる箇所が3と、和本に近いテキストであることがわかる。ここから見登が日本に来て、日本の『五教章』を使っていた可能性が考えられるが、一方、和本とも宋本とも異なる箇所が11か所あり、ここが独自のテキスト、すなわち日本以外の新羅の影響がある部分と考えられるかもしれない。

#### 4 結語

以上、『五教章』のテキスト解明のため、表員『華嚴経文義要決問答』、見登『一乗成仏妙義』という二つの新羅の華嚴文献に引用された『五教章』テキストを、大正蔵本をもとに宋本、和本との比較を行った。

743年以前の著作と考えられる表員『華嚴経文義要決問答』においては和本と宋本との比較でいえば和本と一致する部分が多いテキストが用いられていたことが分かった。851年以前の著作と考えられる見登『一乗成仏妙義』は、日本の寿霊の書物を引用していることから日本で活動した僧侶と考えられるが、テキストは、和宋両本との対比では和本に近いことがわかった。

ただ、両著作とも、和本と宋本とも異なる部分も多く、この部分をどのように考えるのか、要約や趣意によるものか、テキストの誤写に起因するものかなど、考えなければならぬことは多いが、これについては今後の課題とする。

さらに今後は均如や義天らの引用も調べ、それらとの関係を明らかにすることが必要である。そして和本、宋本とも異なる部分で、新羅の引用、高麗の引用が一致していれば、それが朝鮮半島独自のテキストであると考えられるからである。また注釈書に引用されたテキスト研究ということでは、日本の注釈文献や、遼代の著作に引用された中から当時所依とした『五教章』を復元していく作業が必要である。

《参考文献》

〈一次文献〉

- 法蔵『華嚴一乗教義分齊章』(大正蔵 45)
- 見登『一乗成仏妙義』(大正蔵 45)
- 表貝『華嚴經文義要訣問答』(韓仏全 2)

〈二次文献〉

・著作

- 吉津宜英『華嚴一乗思想の研究』(大東出版社、1991年)
- 金知見監修、金天鶴翻訳『華嚴經文義要訣問答』(民族社、1998年)

・論文

- 崔鉉植「『新羅見登』の活動について」(『印度学仏教学研究』第50巻第2号、2002年)
- 佐藤厚「『華嚴五教章』の文献学的問題」(『東アジア仏教学術論集』第11号、2023年)

キーワード

華嚴五教章 華嚴經文義要訣問答 一乗成仏妙義 法蔵 表貝 見登